

白井第三小学校区まちづくり協議会設立準備会

防犯・交通安全ワーキンググループ グループ会議報告書



ワーキンググループメンバー

リーダー：橋本 力

サブリーダー：舟野 勝男

メンバー：富澤 賢司、山崎 輝夫、大友 桂、古澤 清

1	分野 防災	地域課題キーワード	地域課題の具体的内容	評 価 の ま と め	
		①防災意識	地域・住民間の意識の差・温度差		
		②避難所・防災倉庫	避難所・防災倉庫が少ない		
		③道路	冠水・道路狭く火災時に心配		
取組み項目	重 要 性	withコロナの 実 現 性	withコロナの 優 先 順 位	平 常 時 の 実 現 性	平 常 時 の 優 先 順 位
(1) 防災リーダー育成研修の開催	23	15	1	19	1
(2) 防災訓練の開催	21	9	—	19	4
(3) 子ども向け防災教室の開催	15	7	—	13	6
(4) 大人向け防災勉強会・教室の開催	17	7	—	15	5
(5) 地域防災マップの作成 ※	19	15	2	13	3
(6) 防災組織の充実	19	9	3	11	2

ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ リーダー（大人）がいないと始まらない
- ◇ （リーダーは）地区として必要
- ◇ 地域を守るために連携する
- ◇ 命を守る行動
- ◇ 生活・人に注目した防災マップ
- ◇ 考え方や情報収集は（コロナ禍の）今でもできる
- ◇ 第三小学校エリアの地域マップが必要
- ◇ 人⇒組織⇒情報⇒訓練⇒充実の流れで活動を行うのが理想

まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<p>防 災</p>	<p>(案1) 地域の生命・財産を守るため、住民と公共が連携する</p> <p>(案2) 災害時の被害を最小限化する『減災』を目指す</p>	<p>1. 防災リーダーの選抜</p> <p>2. 防災組織の充実</p> <p>3. 地域防災マップの作成 ※情報共有・何が必要かを認める資料として作成。</p> <p>4. 防災訓練の開催</p> <p>5. 大人向け防災勉強会・教室の開催</p> <p>6. 子ども向け防災教室の開催</p>	<p>①現在活動している人のリストアップ ②現在活動している人への声掛け ③防災リーダーの募集 ④防災リーダー育成研修の開催</p> <p>①第三小学校区での役割の検討 ②第三小学校区での避難所運営方法の検討 ③学校や市との協議</p> <p>①どのようなマップを作成するか内容の検討 ②情報(人・モノ)収集の実施 A) 自治会等で所有しているもの B) 井戸等の場所 などの情報を集める ③マップの作成</p> <p>①防災訓練の開催</p> <p>①大人向け防災勉強会・教室の開催</p> <p>①子ども向け防災教室の開催</p>

2	分野	地域課題キーワード	地域課題の具体的内容	評 価 の ま と め
	防犯	①防犯灯	暗い、少ない、不安な道がある	

取組み項目	重 要 性	withコロナの 実 現 性	withコロナの 優 先 順 位	平 常 時 の 実 現 性	平 常 時 の 優 先 順 位
(1) 防犯パトロールの強化	24	14	1	20	1
(2) 防犯人材の充実	22	14	4	18	2
(3) 防犯情報の共有・発信	19	12	2	18	2
(4) 子ども110番の拡充	12	10	5	16	4
(5) 地域防犯マップの作成 ※	18	14	3	18	3

ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ 人（人材）は重要である
- ◇ 情報発信について、現状ないことから必要性を感じる
- ◇ 子ども110番の目的などを知らない人もいるため周知が必要
- ◇ 子ども110番は主体が市PTA連絡協議会のため、調整・連携が必要
- ◇ 防犯マップは取り扱いが難しい（犯罪者に有益な情報になってしまう恐れがある）
- ◇ 防犯人材の充実という取組項目のイメージが湧かない
- ◇ （3）防犯情報の共有・発信と（5）地域防犯マップの作成は繋がっている
- ◇ （2）防犯人材の充実は、防犯指導員の充実・連携が必要
- ◇ 情報発信について、あんしんあんぜんメールがあるが一方向
- ◇ 情報共有の場所づくりが必要
- ◇ 夜間パトロールだけでなく、昼のパトロールに重要性を感じる
- ◇ PTA…ながらパトロール（買い物・散歩等）
- ◇ （3）防犯情報の共有・発信には組織も含まれていると思う
- ◇ （2）防犯人材の充実と（3）防犯情報の共有・発信については一体として考えるべき
- ◇ 防犯指導員はそれぞれが個の活動となっているため、連携が必要
（参考：第三小学校区の指導員は現在26人）
- ◇ withコロナの防犯活動は集まれないため難しい→少人数なら可能
- ◇ 防犯人材の充実は意外と難しい（何をするか分からない）
- ◇ こういう時だからマップは作りやすい

- ◇ 下校時の見守りも必要
- ◇ 昔からあるものしか組み合わせていない（ネットやメールを使った特殊詐欺などへの防犯支援体制）
- ◇ 青パトの活用が大変（講習を受けないと利用できない、市役所での受け取り・申請など→第三小学校区から市役所は近くないので、何度も市役所へ出向くのが大変）
- ◇ 人材の継続性も必要
- ◇ 防犯指導員は無償のため、就任を依頼しづらい
- ◇ 防犯指導員の組織化（支部的な）が必要

まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<p>防犯</p>	<p>(案1) 犯罪を未然に防ぐ ～共有・連携・そして信頼 ～</p> <p>(案2) 個々の犯罪抑止意識を高 め、思いやりの心を育てる</p>	<p>1. 防犯パトロールの強化</p> <p>2. 防犯情報の発信と防犯人材の 充実</p> <p>3. 地域防犯マップの作成</p> <p>4. 子ども110番の拡充</p>	<p>①現在実施している活動の充実</p> <p>A) 夜のパトロール実施</p> <p>B) 通学・帰宅の子どもの見守り</p> <p>C) 青パトの実施 (改善)</p> <p>②昼のパトロールの実施 「ながら」パトロールの推進</p> <p>③第三小学校区独自のパトロール体制の構築</p> <p>①防犯指導員の連携・組織化</p> <p>②見守りボランティアの連携・組織化</p> <p>③第三小学校区での情報共有及び地域への反映</p> <p>④情報発信方法の検討 (周知・徹底)</p> <p>①危険個所の情報収集及び把握</p> <p>①市PTA連絡協議会、第三小学校PTAとの協議 及び連携</p>

3	分野	地域課題キーワード	地域課題の具体的内容	評 価 の ま と め	
	交通安全	①歩道・道路・標識	歩道がない、道路が狭い、信号・標識が少ない		
		②車の事故	車が多い、通学路でスピードの出しすぎ、同じ場所で事故		
		③交通マナー	中学生のマナーがよくない		
取組み項目	重 要 性	withコロナの実現性	withコロナの優先順位	平常時の実現性	平常時の優先順位
(1) 交通危険場所の集約・発信	26	20	1	24	1
(2) 交通安全教室の開催	22	12	4	22	4
(3) 中学生による子ども交通安全講座の開催	14	8	4	18	4
(4) ボランティアの体制充実による見守り強化	18	10	3	18	3
(5) 交通安全リーダーの養成	16	12	2	14	2
(6) 自転車免許証の発行	9	5	4	7	4

ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ (3) 中学生による子ども交通安全講座の開催は中学生によるとなっているが、主体は大人だと考え点数は3点とした。
- ◇ (4) ボランティアの体制充実による見守り強化とあるが、ボランティアに頼っているのか気になった
- ◇ (5) 交通安全リーダーの養成について、現実はやなかなか集まらないと考えた
- ◇ 関東一高のところの信号のない交差点が危険である
- ◇ 子どももそうだが大人の交通安全も大切である
- ◇ 自転車免許証は、子供たちにあげると意識をもってくれる。第一小学校でやっている
- ◇ (4) ボランティアの体制充実による見守り強化、(5) 交通安全リーダーの養成を行うにしても、まずは危険場所の把握が必要になってくると思う
- ◇ (1) 交通危険場所の集約・発信では、どこが一番危険なのかを洗い出さないと他の活動がしにくいと思う
- ◇ ボランティアを増やしていくことは必要、高齢者も増えてくるのでボランティア意識をもってもらえるよう声掛けしていきたい
- ◇ 富士は道路が狭いが、スピードを出している車が少なくない。自転車もどいてくれないなどマナーが悪い。子どもより大人のマナーの悪さが目立つ。交通安全教室は開催した方がいいと思う
- ◇ (2) 交通安全教室の開催、(3) 中学生による子ども交通安全講座の開催、(6) 自転車免許証の発行については、ひとくくりにしてもいいのでは。(2) 交通安全教室の開催の手法として、(3) 中学生による子ども交通安全講座の開催と(6) 自転車免許証の発行』を行うなど

- ◇ 見守りは意外と怒鳴られたりすることがあり、なり手が少なかったりする。
- ◇ 防犯と違って交通整理はスキルが必要、リーダー育成するならスキルを持たせることが必要
- ◇ (1) 交通危険場所の集約・発信はコロナでも平常時でも実現可能
- ◇ コロナ禍では人が集まるものは厳しい
- ◇ (1) 交通危険場所の集約・発信をやるために、交通安全リーダーがいるといいと思う
- ◇ 交通安全の活動をしている方々で年1回でも情報共有の場があると良い
- ◇ いま活動している人を中心にリーダーを養成するのがいいのでは

まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<p>交通安全</p>	<p>(案1) 解決に向けて、まちづくり協議会で危険な場所の解消に取り組む</p> <p>(案2) 危険な場所をみんなで共有する</p> <p>(案3) 子どもと高齢者をみんなで見守る</p>	<p>1. 交通危険個所の集約・発信・共有</p> <p>2. 交通安全リーダーの養成</p> <p>3. ボランティアの体制充実による見守り強化</p> <p>4. 交通安全教室の開催</p>	<p>①「みんな」情報収集・確認</p> <p>A) 現地調査 B) 自治会等から聞き取り調査 C) 通学路ではない危険個所の把握</p> <p>②情報の相互発信</p> <p>①交通指導員の連携 ②現在活動している人を中心に組織化</p> <p>①ボランティア協力者の募集 ②学校との連携</p> <p>①中学生による子ども交通安全講座の開催 ②親子交通安全教室の開催 ③大人を対象とした交通安全教室の開催 ④自転車免許証の発行 ⑤「交通安全」のみでは人を集めることが難しいので、他の事業・イベントと合同で講座等を開催することの検討</p>